

「女性支援」「環境活動」を中心に、千趣会にできることを 積み重ねていきます。

社内のダイバーシティ推進

女性社員の活躍推進

女性管理職比率が1.3ポイント増加しました。

千趣会では、ダイバーシティ推進方針、女性活躍推進方針に基づき、すべての領域において多様な人材が活躍できるような職場環境の整備を進めています。

2015年度の女性管理職比率は、前年より1.3ポイント増加の10.4%となりました。また、在職中に妊娠した女性社員の出産休暇・育児休暇取得率は95.8%、復帰率は93.8%となっています。育児支援制度の整備によりスムーズな復職を実現するとともに、女性の人材価値を高め、企業の競争力強化へとつなげています。

これらの取り組みにより、当社(本社・正社員)の2015年度の離職率は約3.0%※と低い水準にとどまっています。

※ 年度初めから1年間の離職者数÷起算日における在籍者数×100で計算(60歳定年退職者を除く)

主な育児支援制度

妊娠中	・妊婦者休暇	20日取得可能な休暇。つわり・通院などに利用可。半日単位で使用できる。
出産期	・ハローベビー休暇(男性)	3日取得可能。配偶者の出産時の入退院・出産の立会いなど、子どもの誕生前後に利用できる休暇。半日単位で取得可能。
	・産前産後休暇	出産予定日の6週前から産後8週まで取得可能。
育児休業期	・育児休業	2歳の誕生日前日まで取得可能。
職場復帰後	・保育所の法人契約	会社の近くの保育所と契約し、自宅の近くに保育所が見つからない場合法人契約料金を利用可能。
	・時短	小学校3年生まで育児時短勤務を取得可能。
妊娠～復帰後	・サポーター制度	人事部スタッフが仕事と妊娠～育児の両立についてアドバイザーとして上司と本人をサポートし、各種手続き、復帰までの職場準備を行う制度。

多様な人材の登用

障がい者や高齢者の雇用を推進しています。

2015年度の障がい者雇用率は2.14%となりました。入社に際しては、受け入れ部署と連携し、入社後3カ月頃の面談などのフォローを実施しています。

また、定年退職者の再雇用も推進しており、2015年度の再雇用契約者数は7名、2015年12月31日現在の再雇用契約社員数は33名となっています。

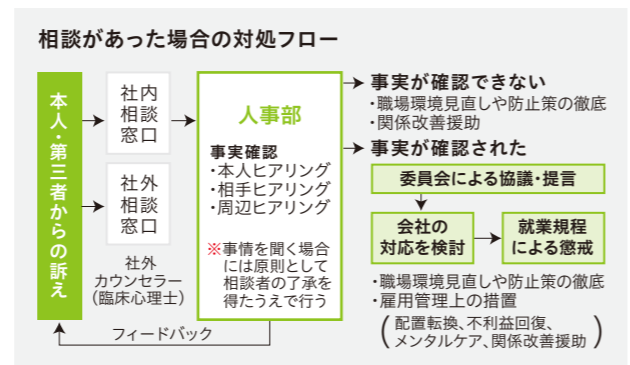
今後もさまざまな人材にとって働きやすい職場づくりを促進し、能力発揮の場を提供していきます。

人権の尊重

社内外に相談窓口を設置し、ハラスメントの防止に取り組んでいます。

差別のない職場づくりの一環として、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの防止に取り組んでいます。研修の定期的な実施、社内外の相談窓口の設置のほか、「セクシュアルハラスメント防止ハンドブック」の作成・イントラネットでの公開など、各種対策を実施しています。

また、ハラスメントが発生した場合は、プライバシー保護に十分留意したうえで、社内外の相談員が相談者と話し合い、その意向を尊重しながら、適切に対応しています。



労働環境の改善

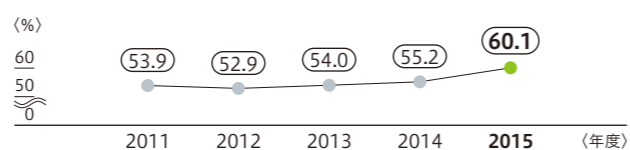
ワークライフバランスの向上・充実

時間外労働の削減や、有給休暇の取得率向上に取り組んでいます。

1カ月あたり60時間超の時間外労働が認められる場合、従業員には産業医との面談、その上司には改善策の提出を義務付けるなど、労働環境の改善に努めています。また、長時間労働が慢性化している部門・個人の所属長から定期的にヒアリングを実施し、労働時間の適正化を推進しています。

また、有給休暇を3日以上連続で取得する「リフレッシュ休暇」も推進しており、従業員がワークライフバランスを取りやすい環境づくりを進めています。

有給休暇の取得率



労働安全衛生

心身両面の健康増進に取り組んでいます。

2015年度の契約社員・嘱託・パートを含む従業員の定期健康診断受診率は96.8%でした。

メタボリックシンドローム対策として、対象者には社内保健師による生活指導や、国からの特定保健指導を受けるよう促しています。また、2016年度に実施予定のストレスチェックについても、導入準備を進めています。

大阪本社にて実施した防災訓練には1,059名が参加、実際に消火器や消火栓を使用した消火訓練には58名が参加しました。これまで安否確認のみ行っていた訓練内容を見直し、各フロアで火災が発生したというシナリオに変更。状況に変化があった際にもスムーズに情報の連携を行えるような訓練としました。また安否確認メールの仕組みも取り入れており、非常時の従業員の安全確認にも努めています。

従業員のエンプロイアビリティ向上

人事制度

成果だけでなく、行動も評価する制度を導入しています。

当社では人事制度を人材育成のためのツールと捉え、さまざまな評価基準を導入しています。

成果を評価するだけでなく、イノベーションの実現に向けた行動そのものを促進するために、「通常の活動をプロ意識

教育研修

マネジメント力の強化に注力しました。

OJTを中心としながらも、個人の役割や成長段階に応じた研修機会と、異動や配置などの実践の場を連動して提供することにより、個人の成長を促進・支援しています。

2015年度は、階層別研修、能力開発研修などにより、特にマネジメント力の強化に注力しました。ほかにも、通信教育やスクーリングなどのメニューを年間を通じて提供し、従業員の能力開発を促進しています。また2014度より、新たに「オフサイトミーティング」という形で、気楽にまじめな話をする場を設けています。これにより、組織や肩書にとらわれることなく目的や価値観を共有し、組織の壁を越えた相互協力により価値創造をしていくマインド・行動を醸成することで、今後の企業価値向上につなげていきます。

その他の取り組み

- ・ 仕事と育児の両立支援の取り組みを継続(2007年、2011年、2014年に次世代認定マーク「くるみん」を取得)
- ・ 労使協議会、労使懇談会での対話を継続

topics 育児関連商品の開発に、ママ社員が活躍

当社では毎年、社内商品提案大会「ユニークスマイルアワード」を実施しています。これは全従業員からユニークで斬新な提案を募り、大賞を受賞したアイデアを商品化し、販売するものです。

2015年度は、応募総数1,040件の商品開発・サービスのヒントとなるさまざまな企画が集まりました。大賞作は女性社員の経験をもとに考案された「「妊婦健診完全対応」検査ラクラクマタニティワンピ」。経験者にしかわからないママならではの提案でした。そのほかにも、これからの商品開発・サービスのヒントとなるさまざまな企画が集まりました。

今後も、ほかにはない当社ならではの商品開発・サービスを進めていくため、イノベーションが生まれやすい環境や組織づくりを推進していきます。

「妊婦健診完全対応」検査ラクラクマタニティワンピ 発案者の声

毎月行く妊婦健診に何を着ていいのか迷っていたので、「コレを着れば安心!」という、妊婦健診対応服があればいいなと思っていました。慣れるまでは健診そのものに対して、気持ちが億劫になることもありますが、検査しやすい服があれば健診時間も過ごしやすくなり、妊婦の笑顔につながると思います。



品質・生産マネジメント

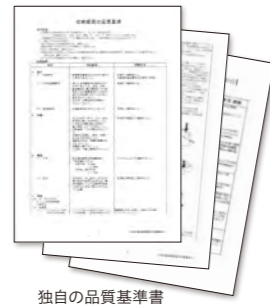
品質マネジメント

品質管理体制のもと、明確かつ厳格な自社基準値を設定しています。

当社では、販売する商品の品質管理の関連法規の順守に業界基準などを加えた独自の品質基準を、30年前の1986年に設定し、現在も改定しながら運用を続けています。

多品種を販売する小売業だからこそ、明確な自社基準を設定し、当社を信頼して商品を購入いただくお客さまに満足いただけるよう、仕入先の協力を得ながら、品質確保の取り組みを進めています。

また、品質確保のための管理体制も整え、万が一商品に不具合や問題が起こった際の被害拡大の防止や早期対策にも注力しています。お客さまの安全・安心を第一に、品質マネジメントに取り組んでいます。



独自の品質基準書

品質基準の考え方

衣料: JIS基準
 雑貨: JIS・SG基準
 食品: 食品衛生法

+

千趣会独自の
 自社基準、自主規制、
 管理マニュアル

自主基準・規制の例

品名	規制
衣料品	<ul style="list-style-type: none"> ベビー・乳幼児向け衣料品の法令順守のほか、下着・靴下などの指定商品における遊離ホルムアルデヒドについては、法規制よりさらに厳しく、ホルムアルデヒドがA-AO=0.05or16μg/g以上検出される商品の販売を規制しています。 自主規制により、肌に刺激の強いモノフィラメント、ガラス繊維などの素材は触肌部には使用していません。
雑貨	<ul style="list-style-type: none"> 「もの干し」や「アイロン台」の耐荷重・強度などの基準はJIS・SGにも規定がないため、自社独自の性能に関する試験項目を設定しています。 自主規制により防虫・防カビ加工剤については安全のため一部使用を規制しています。
食品	<ul style="list-style-type: none"> 通信販売の特性上、食品衛生法より厳しい自社衛生基準値を適用しています。

上記とは別に、環境保護への取り組みとして「環境商品採用基準」を設け、販売規制も行っています。

サプライチェーン・マネジメント

取引先さまとともに「千趣会品質」をつくりあげています。

自社オリジナルの商品はもちろん、仕入れ商品についても、当社で販売する商品はすべて、当社が規定する品質基準をクリアしています。それは、生産委託先工場やサプライヤーであるメーカーに当社が求める品質への理解を徹底しているからです。

例えば、中国の工場に生産委託している自社オリジナル衣料品は、当社認定検品工場(2015年12月時点で26拠点)で原則全数を検品(一部除く)。中国生産の自社オリジナル雑貨品についても、委託業者による出張検品をベースに必要なに応じて検品工場で全数検品するとともに、当社従業員が現地へ赴き、検品確認をしています。化粧品、医薬部外品、食品などのお客さまの肌や体内に影響を及ぼす商品にいたっては、さらに厳格な品質管理を実施しています。例えば、当社の頒布会事業で扱う食品については、当社からバイヤーだけでなく、品質管理担当が生産工場に直接出向き、現場で指導するなど取引先さまを支援。取引先さまと一体となって品質管理に取り組み、安全・安心な商品をお客さまにお届けしています。

また、当社では、さまざまな商品やサービスをお客さまに提供する企業の責任として、商標権や著作権などの知的財産権の保護に取り組んでいます。法務担当部門からは他社の知的財産権を侵害することのないよう、権利侵害事例の共有を目的とした社内向けの「法務ニュース」を定期的に従業員向けにメールで配信し、また、権利確認の徹底を目的とした勉強会を開催するなど、従業員に対する教育を行っています。取引先さまとの契約においては、他社の知的財産権を侵害しないよう保証いただいています。

一方、下請法順守については、社内研修会や「法務ニュース」でも取り上げて従業員の理解促進を図っています。

顧客満足の向上

ベルメゾンCSI調査

サービス品質の向上に活かしています。

当社では、2015年度もベルメゾンの実効会員約4万6千人を対象にベルメゾンCSI(顧客満足度指数)調査を実施し、サービス品質の向上に活かしています。

そのほか、個別の満足度調査として、配送品質向上のために、カタログのお届け・ご注文商品のお届け・組立設置商品のお届けについてWebサイトやハガキでの満足度調査を実施。また、コールセンターの対応品質向上に向けて、IVR(自動音声応答)を活用した満足度調査などを実施しています。

上記の各取り組みによる定点観測やお客さまからの声を一つ一つ確認し、顧客満足度向上に向けて継続的に取り組んでいます。

顧客への情報提供

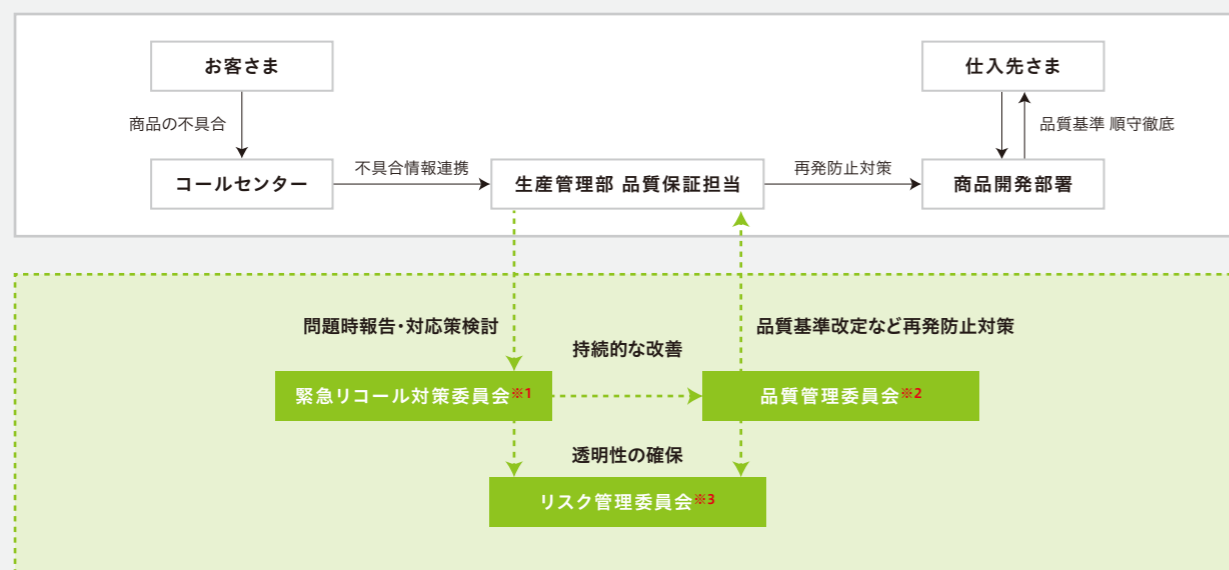
育児情報サイトを運営しています。

2015年10月、オウンドメディア型のキュレーションサービス※「ニコッティ」の運営を開始しました。このサービスでは妊娠から育児中のお母さんが興味関心の高いカテゴリ情報をピックアップしてまとめて提供しています。またWebサイトだけでなくスマホ用のアプリもリリースすることで、まとまった時間が取りづらい子育て中の女性にとって手軽に情報収集を行えるツールとして高い評価を得ています。



※キュレーションサービス: Web上でのコンテンツを特定のテーマでまとめて編集するサービス(<http://nicottie.jp>)

問題発生時の品質マネジメントフロー



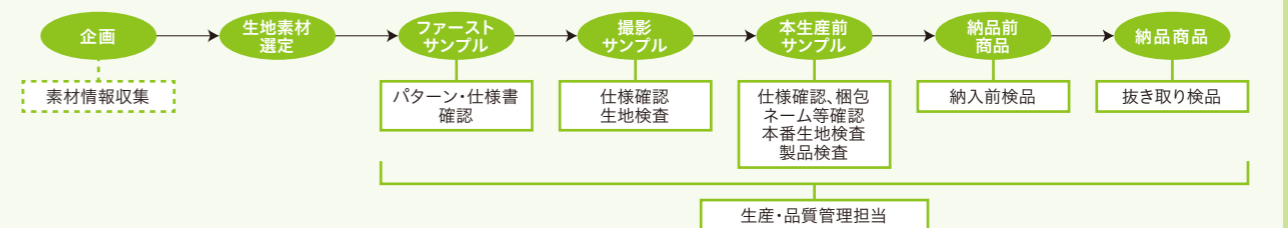
※1 緊急リコール対策委員会: 重大事故の対策と再発防止にスピーディーに対応することを目的に設置
 ※2 品質管理委員会: 社会的背景や事故予防などを考慮しながら、千趣会品質基準の改定に取り組むことを目的に設置

※3 リスク管理委員会: 事故情報を報告し透明性確保を図ることを目的に設置
 ※4 品質検査に関する例は、当社Webサイトをご参照ください。
 (<http://www.senshukai.co.jp/main/top/service/strength/quality.html>)

生産管理の徹底

当社では、企画から商品化するまでの間に、初回のサンプルから商品センターでの最終抜き取り検品に至るまで、多段階でのチェックを厳格に実施しています。

今後、SPA型商品の開発の強化を進めていくにあたり、適切な工場選定や、素材から製品まで一貫した生産管理、品質コントロールなどの精度を高め、さらに徹底していきます。



社会貢献活動

社会貢献活動

「女性支援」を軸に活動を展開しています。

2013年3月から開始したお客さまと一緒に社会貢献活動「えがおの森」※は、「東北復興支援」「女性支援」「環境活動」の3つの領域を軸に、「東北ハハトコかけはしプロジェクト」「ピンクリボンプロジェクト」「グリーンプロジェクト」として活動を行っています。また、それらの運営にはお客さまからの寄付や協賛商品の売上の一部からなる「えがおの森基金」を活用しています。これまでに培ってきたお客さまと当社の信頼関係を活かし、個人では実現できないことを企業の力で実現すべく、新しいCSR活動の形として、さらに充実した支援を継続していきます。

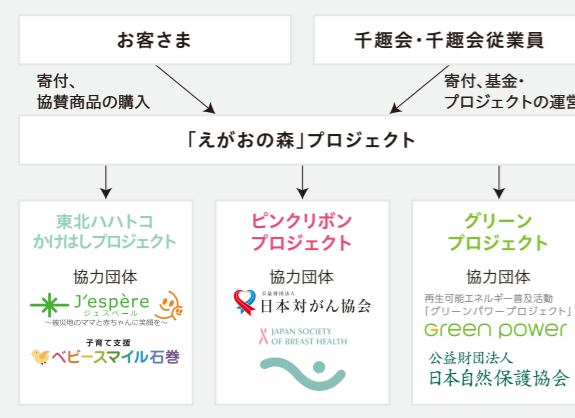
そのほかにも、子どもたちのスポーツ活動や海外の教育関連への支援などの活動を実施。グループ会社も含め、全社的に取り組んでいます。

※ 詳細な活動内容については当社Webサイトをご参照ください。
(http://www.egaono-mori.jp/)

「えがおの森」以外の社会貢献活動

- ・学童軟式野球全国大会「ポップアスリートカップ」をメインスポンサーとして支援
- ・産院を通じての育児日記の配布
- ・(財)千趣留学生奨学財団よりアジア留学生の支援
- ・大阪本社「クリエイターズギャラリー」での女性アーティスト支援
- ・従業員による古書などの寄付「BOOK MAGIC」の実施
- ・東北復興支援として社内イベント「石巻マルシェ」を開催
- ・(株)ディアーズ・ブレインでは、世界各国で学校建設を行う社会貢献活動「Ring」を実施(2015年度はベトナムに中学校、スリランカに小学校を建設)

「えがおの森」プロジェクト体制図



「えがおの森基金」活動 基金報告

えがおの森基金 (円)	
2014年度繰越金	33,925,291
2015年度に集まった金額	25,750,854
活動開始日からの累計額	95,850,057
東北ハハトコ基金累計額	55,497,174
ピンクリボン基金累計額	28,567,159
グリーン基金累計額	11,785,724

東北ハハトコ基金 (円)	
2014年度繰越金	17,919,930
2015年度に集まった金額※1	13,550,020
2015年度の支出合計	24,966,936
〈使用内訳〉	〈使用額〉
おくるみ(12,500枚) プレゼント	23,754,483
手作りキット プレゼント	12,453
ベビースマイル石巻 寄付	1,200,000
2015年度繰越金	6,503,014

※1 協賛商品「つむぐの木」の売上の一部を含む

ピンクリボン基金 (円)	
2014年度繰越金	8,343,219
2015年度に集まった金額※2	8,577,252
2015年度の支出合計	12,693,569
〈使用内訳〉	〈使用額〉
日本対がん協会「乳がんをなくすほほえみ基金」寄付	1,727,509
2015年母の日クーポン(1,000枚分)※3	2,643,296
2014年10月クーポン(315枚分)※3	1,702,724
2015年10月クーポン(2,400枚分)※3	6,620,040
2015年度繰越金	4,226,902

※2 協賛商品ブラジャーの売上の一部を含む

※3 マンモグラフィ検診無料クーポン券発行事業協力金

グリーン基金 (円)	
2014年度繰越金	7,662,142
2015年度に集まった金額	3,623,582
2015年度の支出合計	4,499,100
〈使用内訳〉	〈使用額〉
グリーンパワー教室授業運営費	4,499,100
2015年度繰越金	6,786,624

「えがおの森」各プロジェクトの2015年度活動実績

★は基金を使用した活動です。

1 東北ハハトコかけはしプロジェクト



「親子ヨガフェスタ in 石巻」の開催

被災地の「母と子」を応援する「東北ハハトコかけはしプロジェクト」の一環として、2015年度はベルメゾンスポーツカタログ創刊25周年記念ということもあり「親子ヨガフェスタin石巻」を10月に開催。約170名の親子を招き、ヨガに加え、プロのフォトグラファーによる家族写真館やフードコーナー、プチ縁日をお楽しみいただきました。

その他の取り組み

- ・かけはしおくるみプロジェクト★
- ・「いのまき子そだてフェスタ2015」出展(親子deフォト)

2 ピンクリボンプロジェクト



乳がんサバイバーとサポーターをつなぐイベント「RUN & WALK for Breast Cancer Survivors」に協賛

当社のお客さま世代でもある30代以上の女性の乳がん罹患率トップを占める「乳がん」。早期発見で生存率が格段に上がることから、当社は検診受診を促す活動に注力してきました。2015年度には、乳がんサバイバー支援のため、7月5日に東京お台場エリアで開催された日本乳癌学会学術総会主催の「RUN & WALK for Breast Cancer Survivors」に協賛。乳がんサバイバーへの幅広い支援や共感を訴えるとともに、出展ブースでサバイバーの方々にも便利な商品を紹介したり、七夕になぞらえてピンクリボンの短冊に応援メッセージを書いていただきました。

その他の取り組み

- ・乳がん検診無料クーポン券3,400枚配布★
- ・乳房健康研究会ピンクリボンアドバイザー制度協賛
- ・乳がん触診モデル体験実施
- ・スマイルウオーク神戸大会参加

3 グリーンプロジェクト



グリーンパワー教室を継続実施★

全国の小学校高学年児童とお母さんを対象に、毎日の暮らしとエネルギーの関わりや再生可能エネルギーについてのオリジナル出張授業を行う「ハハトコのグリーンパワー教室」を2014年から開催。2015年度は沖縄や北海道など、5校で実施しました。

その他の取り組み

- ・AKAYAの森プロジェクトへの寄付★(日本自然保護協会)

環境活動

環境に配慮した商品の提案

商品を通じて、お客さまの
エコライフを支援しています。

1998年、当社では「環境イディア(憲章)」や「環境方針」を策定しました。そして近年、消費者の環境保護に対する意識が定着するなか、「環境」を前面に掲げたモノづくりから、お客さまの多様なライフスタイルに応じた環境貢献の提案ができるような商品開発へとシフトしてきました。例えば、「エコ」や「オーガニック」をキーワードにした商品は900点以上(2016年2月時点)展開しています。

毎日の暮らしの中で使用される「省エネ」「環境負荷低減」関連商品をはじめ、省エネにつながる「寒さ、暑さ対策」商品や、分別ごみ箱、節電ステッカーなどの「家族への習慣づけ」商品などの販売にも注力しており、お客さまのエコライフに貢献しています。

環境イディア(憲章)

Think the Earth, think the future

人と環境、そして地球の未来を考える

人と環境、地球との関わりを考える
それは私たちの未来を考えるということ。

千趣会は通信販売というシステムを通じて商品開発から、販売、そして販売後の環境改善活動までを含めた企業活動を、今いちど地球環境への配慮という視点から見直す努力をします。



スローガンはThink the Earth, think the future
全社的に地球環境保全に積極的に取り組みます。
平成10年11月1日

環境方針

3つの約束

- 活動をオープンにし、ステークホルダーの意見を取り入れながらともに活動します。
- トリプルボトムライン(環境-社会-経済)の視点でバランスのとれた活動を目指します。
- 私たちは、環境を決してイメージだけでは語りません。

5つの方針

1. 紙の環境負荷軽減(ネット販売推進によるカタログ用紙の削減や植林)への取り組み
2. 省エネルギー活動や再生可能エネルギー、自然保護の普及活動等を通じた地球温暖化防止への取り組み
3. 商品開発を通じたエコライフの提案
4. 3R(Reduce:減量・Reuse:再利用・Recycle:再利用)の推進
5. 環境コミュニケーションへの取り組み

環境に配慮した商品例

オーガニックコットン

環境負荷低減 トレーサビリティ

綿花の栽培中はもちろん3年以上農薬や化学肥料を使用していない農地で栽培された自然にもやさしいオーガニックコットンを使用した商品を2010年から販売。ラインアップはベビー用のウェアやグッズ、寝具類をはじめ、タオルやインナー、肌着、ハーフトップブラジャーと、年々拡大しています。新ブランド「ベルメゾンデイズ」でも、綿100%オーガニックコットンを使用した寝具カバーを展開。他のオーガニックファブリックにはないナチュラルで細やかな柄展開が特長です。



「ホットコット」シリーズ

寒さ対策(省エネ)

あたたかいインナーを着用することは省エネにもつながるとして、綿混素材にこだわった吸湿発熱インナー「ホットコット」を開発、販売しています。「ホットコット」は化学繊維100%の発熱ウェアに比べて「着た時のヒンヤリ感、チクチク感がない」と人気を博しており、シリーズ累計販売数は594万枚を超えました。2015年度にはオーガニックコットン、中空綿、発熱綿をブレンドした綿100%のホットコットも追加しました。



「フラップ分別ダストボックス」

ごみ分別 リサイクル促進

リサイクル促進の習慣の意識づけを考え、生ごみや瓶・缶など細かく分別することで、ごみ捨てが楽にできるように工夫を凝らした分別ごみ箱で、また奥行のない場所でも設置できる薄型設計や、開閉しやすいフラップ式であるほか、調理中にも使いやすいよう下段はワゴン仕様とするなど、女性目線での工夫も凝らしています。



紙資源の削減

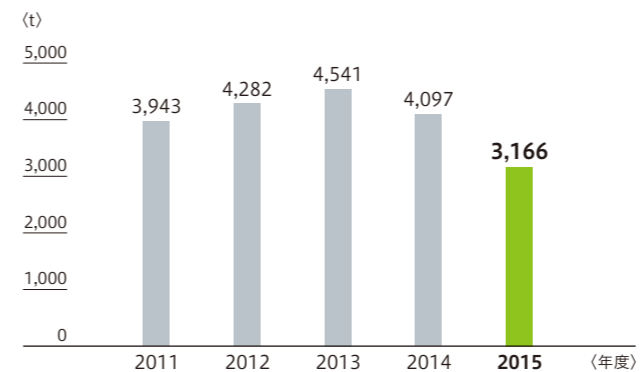
紙カタログや包装資材の削減に取り組んでいます。

当社では、年間約6,766万部のカタログ発行にあたり、約3.5万tもの紙を使用しています。しかしお客さまの購買行動の変化により、カタログ発行による紙使用は長期的にみると減少傾向にあり、ネット販売が増加しています。同時にスマートフォンの利用も加速しており、これらの対応に力を入れることが結果として、紙カタログ量の削減につながると考えています。

また、大切な商品を安全にお届けするために、相当量の容器包装資材を使用しています。中でもダンボールは年間約3,166tに及びます。これを減らすため、ダンボールの薄肉化や、袋包装への切り替えなどを推進しています。

社内においても、プロジェクトの使用や共有フォルダ投稿によるパソコンでの確認、複数ページの割付け印刷・両面印刷を推進するほか、裏紙やミスコピー紙などのリユースを推奨する取り組みにより、紙使用量の削減を行っています。

ダンボールの使用量推移(千趣会グループ物流発送分)



物流における環境負荷低減

物流拠点の統廃合で、
拠点間移動量を削減しています。

当社では、物流の効率化によるCO₂排出量の削減にも取り組んでいます。

これまで土岐、大野、今嶺の3箇所にあった物流拠点を集約・統合し、2015年12月に美濃加茂ディストリビューションセンターを開設しました。新センターは、当社最大の物流拠点である可児ディストリビューションセンターとも車で17分と近く、連携を強化することで、商品の拠点間物流量を減少させることを計画しています。

また、より効率的な物流オペレーションが可能となるため、同梱率の向上も見込んでいます。

美濃加茂ディストリビューションセンターへの物流拠点集約



※ベルメゾンの大型商品出荷は、取引先さまの倉庫を利用しています。

エネルギー使用量の削減

年間を通して、全社を挙げた
省エネ活動を推進しています。

当社では、拠点各フロアに「節電委員」を任命。その主導のもとに省エネ活動を推進しています。中でも電力使用量の多くなるクールビズ期間(特に電力使用量の多くなる6月~9月)とウォームビズ期間(12月~翌年3月)を設定し、重点的に取り組んでいます。2010年度比で夏期は37%(2015年度)、冬期は27%(2014年度)の電力削減を実現しました。7月と12月には環境省が主導する「ライトダウンキャンペーン」の一環として、本社・ビジネスセンターを20時に一斉消灯し、従業員の意識向上に努めました。ほかにもエアコン設定温度の調整やエレベーターの使用抑制、ノー残業デー・深夜残業禁止の徹底による節電などに取り組んでいます。また、全社で照明器具をLEDに順次交換しているほか、社有車についてもハイブリッド車への切り替えを進め、現在9割がハイブリッド車となっています。

ブランド買い取りサービスでリユースを推進

通販事業ベルメゾンでは、リユース業界大手の(株)コメ兵と提携し、2013年にスタートしたブランド買い取りサービス「URURAKU」が好調に推移しています。

ベルメゾンが提供していることへの安心感と、自宅にいなながら査定や売却の手続きを完了するシステムの採用で来店の手間や対面交渉のわずらわしさを排除したことが、利用者にも好評を得ています。

社会的にもシェアリングサービスへの需要が高まる中、今後も会員とのつながりを通じた生活サービスを模索していきます。

